

パラスポーツをはじめたいひと、パラスポーツを支えたいひとの
「はじめの一步」を後押しします！



ここから、はじめてみよう。

YOKOHAMAパラスポーツシンポジウム

公益財団法人横浜市スポーツ協会(以下、当協会 横浜市中区/代表理事:山口宏)は、「いつまでもスポーツが楽しめる明るく豊かな社会の実現」のために、スポーツに関するさまざまな事業に取り組んでいます。

中でも、横浜市スポーツ推進計画に掲げられている、共生社会の実現に向けて障害者と健常者が共に楽しめるインクルーシブスポーツの推進にも、積極的に取り組んでいます。

このたび、障害の有無に関わらずスポーツに参加するきっかけをつくるため、標記イベントを開催いたします。

共生社会の実現に向け、東京2020パラリンピックで活躍した選手やスタッフの言葉を通して、パラスポーツに興味を持ってもらうと共に、当協会や社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団の取り組みをはじめ、市内のパラスポーツ活動について知っていただくことで、身近な場所でのスポーツ参加機会の選択肢となることを目指します。

開催日時	令和4年3月12日(土) 11:00~12:00
開催方法	■オンラインライブ配信 YouTubeチャンネルURL : https://www.youtube.com/channel/UCcMWYa6Xu9rgDRY_jODaxIg
対象・料金	どなたでも視聴可・無料
トークテーマ	■ 東京2020パラリンピックでの一番の思い出 ■ 競技やスタッフを始めたきっかけ ■ 競技やスタッフを今まで続けてこられた理由 ■ 競技やスタッフをこれから始めたい人へのアドバイス ■ パラスポーツに関わる事業やイベントを計画・準備する時のポイントなど
出演者	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"><div style="width: 50%;"><p>栗栖 良依 (認定NPO法人スローレーベル 理事長) 既成概念に囚われない自由な発想で、異分野・異文化の人や地域を繋げ、新しい価値を創造するプロジェクトを多方面で展開。2010年、骨肉腫を患い障害福祉と出会う。翌年、SLOW LABELを設立。ソーシャルユースで多様性と調和のある世界の実現をめざす。東京2020パラリンピック開閉会式ステージアドバイザー。 <small>Photo by Hidemi SHINDO</small></p></div><div style="width: 50%;"><p>吉沢 剛 (日本パラスポーツ協会公認 障がい者スポーツトレーナー) 2016~2019年日本スポーツ振興センター在籍時、パラスポーツの国内外の合宿・試合に帯同。リオデジャネイロ2016大会、東京2020大会にてパラ水泳チームに帯同。</p></div><div style="width: 50%;"><p>田中 光哉 (パラテコンドー選手) 東京2020大会開催決定を機に、東京都の障害者スポーツ支援団体に大学卒業後就職。2年後にアスリートを目指しテコンドー競技開始。東京2020大会出場。 <small>©Futoshi Akiyama</small></p></div><div style="width: 50%;"><p>日向 楓 (パラ水泳選手) 兄の水球教室がきっかけで小学1年生で水泳を始める。東京2020大会ではリレーを含む4種目に出場し、50mバタフライ(S5)で7位入賞。</p></div><div style="width: 50%;"><p>司会</p><div style="display: flex;"><div style="width: 50%;"><p>杉内 周作 (元パラ水泳選手) アテネ2004大会 銅メダリスト。 現役引退後は、後進の指導を続けている。パラ水泳連盟のアスリート委員会の発足にも寄与。一般社団法人 日本パラ水泳連盟 理事。</p></div><div style="width: 50%;"><p>江口 桃子 (フリーアナウンサー) TBSニュースバードキャスターを経て、FMヨコハマ横浜市広報番組DJなど。横浜市内で行われるスポーツイベント司会を多数行う。日本スポーツマンシップ協会理事。</p></div></div></div></div>
主催	■ 公益財団法人横浜市スポーツ協会 ■ 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団
共催	横浜市